

2. 事業の概要と成果							
(1) 上位目標の達成度	50 台の車椅子を公的機関である 3 か所の施設に予定通り供与できたことで、目標は達成できた。						
(2) 事業内容	当初定めた下記事項については、予定の日程により完了した。 ア) 車椅子の洗浄、補修等の整備、梱包 →大津市内及び隣接する京都山科にて実施。 イ) 車椅子の輸送 輸出手続 (車椅子の保管先である滋賀県大津市からペルー国カヤオ港迄の陸上輸送、海上輸送の諸手続き) →2015. 3. 25 神戸港より出港 ウ) カヤオ港での引き取りと現地事務所への運搬、要請供与施設迄の陸上輸送 →2015. 5. 13 カヤオ港到着 - 税関手続き完了 →2015. 6. 6 カヤオ港より現地事務所へ →2015. 6. 7・8 事務所にて点検補修整備・ラベル貼り →2015. 6. 9 現地事務所より国立小児病院へ →2015. 6. 10 現地事務所よりケレンシア病院へ →2015. 6. 11 現地事務所よりプエブロリブレ区役所へ ※現地施設への引き渡しを実施。管理方法の指導、車椅子の使用方法等も併せて指導を行った エ) 引き渡し式、配布 →2015. 6. 16 引き渡し式 (在ペルー日本国大使出席) ・各供与先ごとの開催ではなく、全ての供与先を招いて プエブロリブレ区ホールにて開催。総勢 50 名以上の参加となり、盛況であった。 オ) 施設の台帳による管理方法の指導 →管理台帳の確認、供与先からの要請に応じ、適宜、修理・メンテナンス方法も指導 ※写真別途添付 ※管理台帳等、別途添付 供与先： <table border="0"> <tr> <td>国立小児医療センター付属病院 (リマ市)</td> <td>20 台</td> </tr> <tr> <td>プエブロリブレ区役所障がい者部局 (リマ市)</td> <td>15 台</td> </tr> <tr> <td>国立ケレンシア病院 (ワラル市)</td> <td>15 台</td> </tr> </table> ※別途贈呈書添付	国立小児医療センター付属病院 (リマ市)	20 台	プエブロリブレ区役所障がい者部局 (リマ市)	15 台	国立ケレンシア病院 (ワラル市)	15 台
国立小児医療センター付属病院 (リマ市)	20 台						
プエブロリブレ区役所障がい者部局 (リマ市)	15 台						
国立ケレンシア病院 (ワラル市)	15 台						

(3) 達成された成果	供与された車椅子は、病院の医師や専門家によって評価し利用するシステムがとられている。利用希望者は多く、その中から、優先順位をつけ、振り分けを行っている状態である。 下記は申請時の裨益者数であるが、裨益者数に関しては当初申請時の想定に対し、上回る可能性が高い。 下記は申請時の裨益者数である。 ・ 供与される車椅子の利用者：50 名 ・ 介護者（主にその家族）：約 150 名 ・ 病院、施設職員、家族など：約 1000 名 →病院関係者（医師・専門家・技師等）は、車椅子の整備、車椅子の機能を学ぶことで、これまでにない視点でのアプローチが可能。また、管理台帳にて管理を行うことで、物品管理技術の習得の一躍も担うこととなる。 ※上記にもあるように、利用希望者はたいへん多く、現在の利用者が成長により適合しなくなる場合も容易に想定できるため、裨益者数はさらに増加すると予想される。
(4) 持続発展性	各供与先には管理台帳により、担当責任者を決め管理をするよう指導した。 管理体制が整えば、利用希望者が多いこと、ペルー国は修理の技術に長けていることから、1 台の車椅子を複数名の利用者が利用できる可能性が高く、発展性は高い。